

行き詰まり症候群 4

4：思い切って試みてみよう 教会と創造性

アンディ美湖

(訳 鈴木敦子)

Copyright 2001 Andy Meeko

イエス様の話に退屈する人はいませんでした。それどころか、何千人もの群集は食事さえ忘れて、イエス様の話に耳を傾けました。パウロの話聞いていた一人の青年は、眠りこんで窓から落ちてしまうということはありませんでしたが、イエス様は人を眠らせることはありませんでした。人々はイエス様に魅了されました。彼の教えは、まさにかゆいところに手が届き、心の中のくすぶったおき火を燃え立たせました。彼に関するすべてのことが人々を惹きつけました。勿論これには色々な訳があります。しかしもっとも大きな理由は、イエス様は創造主なる神の子であった、ということです。そして彼は、創造的であっただけでなく、存在そのものが何かを生み出していました。

行き詰った教会の特徴は創造性に欠けているということですが、これは皮肉なことです。というのは、私たちは全ての物の創造主を知っており、その方を礼拝していると言いながら、創造性については大きく欠落しているからです。神様のご性質から言えば、教会こそが社会の中で最も創造的であるべきではないでしょうか。ところが現実はそうではありません。私は以前テレビで、新しいカップヌードルを開発するために様々な工夫を凝らす努力を記録したドキュメンタリー番組を見ました。味噌をベースにした家庭の味から、珍しいきのこ、そして魅力あるパッケージまで、それはまさに独創的な作品でした。インスタントラーメンでさえこのとおりです。それを見たとき、あのカップヌードルは私が今まで行ったことのある多くの教会よりも創造的だと思いました。

創造性を欠くことに言い訳をする教会もあります。あまりにも多様性をもたせ飾り立ててしまうと、礼拝がエンターテインメントに転じてしまうという恐れがあるのかも知れません。しかし、創造的な世界に浸ることが、どんなに私たちの賛美を高めることになるか考えてみてください。生気にあふれた山の空気、美しく広がる花畑や空に渦巻く雲が、心からの礼拝へと導くものにならないでしょうか。説教についても同じ様に創造性が欠けているように思われます。神のみ言葉はそれ自体力強いのですと言いながら、創造性を欠いているのです。確かにみ言葉そのものは力強いのですが、この高価な贈り物を細心の注意をはらって包むことが最もふさわしいのではないのでしょうか。多くの場合説教は、聖書個所の朗読と分かりきったことの繰り返しに終始し、聞き手の知性を侮辱し、神が人に与えた創造性への渇きを踏みにじっています。神は私たちに創造性をお与えになり、腕の利く漁師のように人を引き寄せることを望んでおられます。釣りをする時の一番のポイントは、どんな餌にするかだけでなく、その餌でどのように引き付けるかです。イエス様は、足の不自由な人を歩かせ、盲人の目を開き、死人をよみがえらせる、といった御業の他にも、

創造的な方法を使って教えられました。私たちは本当に言い訳が出来るのでしょうか。

創造性についての研究は、半世紀に渡って進められてきました。私が知りたいと思う以上の多くの理論が発表され、本が出されています。(皮肉なことに多くは非創造的なスタイルですが) 創造性に関する研究の第一人者であるハワード・グルーバーが、創造性に関する最も有名な研究をしたのは、他の誰をおいてでもない、チャールズ・ダーウィンについてでした。ダーウィンは驚くべき人でした。生命というものを理解するために、苦悩しながら無数の考え方、イメージ、夢、論議などをいろいろに並べ替えては組み合わせました。皮肉なことに、彼は生命の営みから神を排除したことで知られ、進化論という理論をもって、多くの人々に神を排除する考え方を広めました。しかし彼は自らの言動によって、彼をご自身のかたちにお造りになった神の、創造的な性質を、身を持って証したのです。

しかし実際のところ、なぜ創造性は大切なのでしょうか。理由はいろいろありますが、まず第一に、一週間を何とか生き延びている教会に、創造性は新しい命を吹き込みます。疲れた心を生き返らせるだけでなく、絶えず変化しつづけるこの世界との接点を与えてくれます。今日うまくいくことが明日そうは行かないかもしれない、ということをお頭にに入れておかなければなりません。絶えず流れ続ける川のように、創造性はいつも私たちの中を流れていなければならないのです。

創造性が大切であるもう一つの理由は、私たちが物事を見る上で違った視点を与えてくれるという点にあります。問題や課題を全く別の見方で見ることができる、ということです。そうすることによって、物事を別の角度から捉え、同じ古いやり方に終始することから免れることが出来るのです。

しかし、私が取り立てて創造性を好むのは、それが新しい現実を作り出すからです。SF小説家という、一風変わったグループは、特に創造的な集団です。今日当たり前だと思っているテクノロジーは、昨日は人々の物笑いになっていたとは、実に驚くべきことです。宇宙に人が行くとか、機械がしゃべる、機械が車を作る、または遠い所にいる人と機械を通して話が出る、といったことは突飛なアイデアでした。SF小説家たちがまず考え出し、それから科学者たちがそれらを具現化しようと仕事に取りかかります。今や、人々がまさかと思っていたことが現実となるのです。昨日のSF小説家たちのアイデアが今日のテクノロジーの世界を作りあげていると言えるでしょう。ですから、もし今日おかしなことと思えても、明日にはそれが現実のものとなるかもしれません。アインシュタインの次の言葉を心に留めておいて下さい。『想像力や創造性は知識よりも重要である。』

教会で豊かな創造性に出会うのは、とても喜ばしいことです。私の友人は『そば伝道』を

試みていました。何組かのカップルを招待し、男性たちがそばを打ち、それを皆で食べるというわけです。言うまでもなく、経験を通してキリストを伝えています。

私たちの働きで、まだ余り人々が DVD を持っていない時に、『ジーザス』の映画の DVD を無料で配布したのも一つの例です。友人であるアーサー・ホーランドが、ボディビル界ややくざの世界で伝道し、今はハーレーに乗りながらオートバイの世界で伝道のパイオニアとなっていることは素晴らしいことです。私の父は25年前に英語教室をはじめたのですが、その中にはチャペルの時間もありました。人々はお金を払ってみ言葉を聞いたのです。教会が未信者の母親たちに子供とインターネットのことや、ホームページの作り方を教えたり、あるいは心の問題の必要に応じていくのを是非見たいものです。勿論同時に、創造主なる神を紹介するのです。今日のポストモダンの時代に生きる人々は、想像力に働きかけることによって福音が届けられるのです。私達はこの難しい問いに創造的に答えなければなりません。ゲームや映像の仮想世界に夢中になっている子供達をどのように捉えていくのか、教会は考えていかなければなりません。知的に、社会的に、又性的にもコンピュータと結びつく現代の社会を創造的に捉えるにはどうしたらよいでしょう。タマゴッチやCG(サイバーガール)にさえ感情移入できる人々にどのように関わったらよいでしょう。中絶をして人知れず苦しんでいる多くの人々にどのように接していけるでしょう。増え続ける孤独でなかなか信じない人々に、どのように手を差し伸べていけるでしょう。

創造性について私が学んだことは、創造性を伸ばすには、時間がかかるという事です。それは丁度筋肉のようなものです。運動して鍛えていくとき、山を動かすほどになるのです。いつの頃からか、私は子どもたちのために寝る前にお話を作って聴かせるようになりました。皆でベッドに横になり物語を作り始めます。「3匹のこぶた」や「赤ずきんちゃん」を卒業し、自分で物語を作り出すことは、最初は拷問に近いものでした。しかしまもなく、妖精や怖い鬼、しゃべるナメクジ、不思議な宝物の話が生まれて来、子どもたちはすっかり惹きこまれてしまいました。不思議にもこれらの話は現実味を帯びて来て、結末は、子供だけでなく自分でも驚くようなものになるのです。まるでパズルの最後の一片を置いたように。

ジョン スタインベックは言いました。「アイデアとはウサギのような物だ。つがいを捕えて手なずけるとあっという間に1ダースにも殖える。」 創造の神様は、私たちがもっと伸ばしていける素晴らしい能力を与えて下さっていると信じます。それは私たちの心の底にある深いトンネルのようなもので、あちこちの曲がり角に小さいウサギがたくさんいるのです。神様に願うなら、それらを見つけることができ、私たちは溢れるばかりの新しい創造を体験できるのです。